

垂水区計画

2020年までの取り組み

平成28年3月
神戸市垂水区

1 区計画の位置づけ

垂水区は、神戸市の西端に位置し、海と山がせまった風光明媚な地形と温暖な気候が特徴的な、三宮や大阪の都心部に比較的近い住みやすい住宅地です。

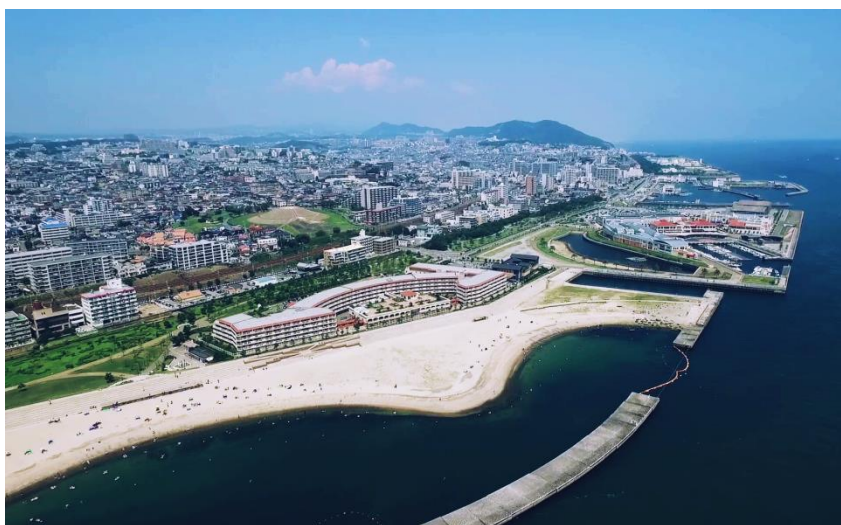
その歴史は古墳時代にさかのぼり、4世紀後半には川沿いに竪穴式住居の集落が広がっていました。その後も、明治時代には資産家の別荘が建てられ、外国人が移り住むなど、住のまちとして発展してきました。

また、世界最長のつり橋「明石海峡大橋」や県下最大の前方後円墳「五色塚古墳」、アウトレットモール「マリニピア神戸」やアジュール舞子海水浴場がある観光・レクリエーションゾーンとしての魅力をあわせもったまちです。

さて、垂水区では、2025年（平成37年）のまちの将来像を「住みたい 住み続けたいまち 垂水」として、さまざまな取り組みを進めています。

この冊子は、区の個性や特性を生かして、2020年度（平成32年度）までに区が区民とともに、重点的に取り組む分野や事業をまとめています。若い世代の移住・定住を推し進め、住んでよかったと思える「住のまち」を目指します。

策定にあたっては、区民のみなさんや垂水区区民まちづくり会議の委員の皆さんのご意見をお聞きしながら、計画を取りまとめました。



2 「たるみっこプラン」の成果と「2020年ビジョン」の考え方

2015年度までを計画期間とする「たるみっこプラン」では、取り組みの柱として、「安全・安心」なまち、「快適・美しい」まち、「元気・楽しい」まち、「ふれあい・交流」のあるまちの4本の柱を設定しました。そして、その4本の柱の下に、11の重点テーマを設定し、さらに、区民とともに取り組む事業として43の事業を設定しました。「たるみっこプラン」では、この43の事業について1年ごとに進捗状況を検証・評価し、平成26年度の検証評価では、これら事業の多くで「目標・スケジュールどおりであり、成果もある」との評価を得て、総合的な判断として「顕著な成果」となりました。

市の「2020ビジョン」の策定にあたっては、計画のスリム化と重点化、基本目標の設定、わかりやすい指標づくりを進め、メッセージ性のある計画にすることにしています。垂水区計画においても、2020年までに重点的に取り組む施策を設定し、メッセージ性のある計画を作成します。

3 2020年までの取り組みの指針

海と山が近い垂水区では、区内のどこからでも、30分以内で、眼前に海が広がる「アジュール舞子」や「舞子公園」に着きます。その海沿いには、県下最大の前方円墳「五色塚古墳」があり、塩屋では外国人居留地の名残の異人館を見ることができます。

一方、丘をのぼった山の手には、昔から地域の生活を支えてきた寺社があり、伝統文化を感じることができます。また、丘陵地を開いてつくった公園では、子どもが遊ぶにぎやかな声が聞こえます。坂の上からは、漁をする漁船が見え、まちのシンボルである「明石海峡大橋」の雄大な景色を眺めることができます。

このように、住みたくなる、訪れたくなる魅力あふれるまちですが、そうした暮らしの基本になるのは、安全で安心して暮らせるまちであり、区民アンケートの結果でも、区において取り組んでいくべき優先テーマは「防犯」でした。（18ページ「参考資料」参照）区民が安全で安心して生活できる環境の整備、体制づくりを、最も優先すべき取り組みとして進めていきます。

次に続く、まちづくりのキーワードについて、「みんなで考える「たるみりょく」発信会議（平成27年2月開催）」で、学生、地域の人、事業者のさまざまな年代・職業の人が参加して、垂水区の魅力について話し合いました。そこから出た言葉は、「景色がいい」

「きれいな海」「交通が便利」「食べ物がおいしい」「庶民的なまち」「地域活動が活発」「新しい住民と以前からの住民の融合」「五色塚古墳」「伝統行事」「おしゃれな洋館」「子育て中のママさんが活躍」など多種多様でした。「区民まちづくり会議」の検討部会でも、「家族が近いこと」「人の温かさ」「交通インフラの便利性」「気候・風土のよさ」といったキーワードが上がりました。

人は「住みやすいまち」「住みたいまち」を考えた時、暮らしの指標の偏差値のみで選ぶわけではありません。交通至便で、商店街に活気があり、風光明媚で、地域がにぎやかで楽しく、家族が近いといった五感で感じる「心地よい暮らし」という生活感を大切にします。手の届く範囲に「心地いい暮らし」があふれている、「そこそこなのが心地いいまち」が垂水区の魅力です。

海の青と山の緑がきれいで、家族や友人、地域の人とほっとできる、快適に生活できる、そして、そんなまちをひとに自慢したくなる、それが垂水区の目指すまちの姿です。

【垂水区の「そこそこなのが心地いいまち」になるキーワード】

豊かな自然環境

海、太陽、坂、緑、
明石海峡大橋、異人館の街並み、田園

家族や友人とともに暮らす

家族が近い、地元愛、
庶民的、個性のある店、地域力

元気な子ども

よさこい、スポーツ大会、
学校行事が活発、伝統芸能の伝承

おもてなしの心

下町と開発団地、フレンドママ、
夏祭り、地域行事

身近に文化的な暮らし

総合文化祭、音楽祭、
芸術家や文化人、地域文化祭

安全で快適な生活環境

交通至便、公園、人にやさしい道

垂水区は、2020年に向けて、「安全・安心なまち」を基本に、多くの区民の皆さんが取り上げた上記の6つの声をキーワードに、各種施策を展開していきます。

4 区の魅力をより強化するための取り組み

1

住む人がより暮らしやすいまち ~安全で安心なまちづくり~

両親の家まで15分。垂水区はこうした世帯の数が一番多いまち。「区民アンケート」では垂水に住む理由の一番は「親族が近くにいるから」でした。家族の近くで、安心して、子どもを育て、親をみる人が多いのです。(18ページ「参考資料」参照)

また、垂水区は、古くからあるまちと昭和30年代以降、丘陵を開いて生まれたニュータウンが混在しています。そして、舞多聞のような、これから大きく育つまちもあります。新しいまちと古くからのまちが融合して育ってきたまちなので、引っ越してきた人を温かく迎える、地域で人を育てる気風が育っています。

☆子どもが元気で健やかに育つまちづくり

垂水区は、安心して子育てができるように地域の中で身近な相談や支援をお願いできる先輩ママ＝フレンドママが398人いて、ロゴの入ったエプロンをつけて、地域福祉センターや児童館で活躍しています。また、ママどうしが交流・情報交換をしている子育てサークルが37(平成28年1月末現在)もあります。

まちのにぎわいは、子どもの元気な声と活躍から生まれます。子どもを育てやすい地域づくりと子どもが地域で健やかに育つ環境づくりを進めます。

【重点的に取り組む施策】

①地域子育て応援事業

子育てアドバイザー、子育てサークル活動支援、親の交流会

②子どもの安全

安全マップの作成、見守りパトロール

③子どもが活躍する場の提供

たるみっこまつり、よさこいまつり、区民スポーツ体育大会、声楽アンサンブルコンクール、農業体験や盆踊り教室など地域の独自活動、和太鼓など伝統芸能

☆高齢者が健康で生き生きと暮らすまちづくり

垂水区は65歳以上の人口は全市で最も多く、構成比率は27パーセントです。一方で、要介護等の認定を受けていない人の数も多く、まちには元気な高齢者がたくさんいて、地域に出て、地域活動や健康づくり、レクリエーションと生き生きと活動しています。高齢者がいつまでも健康で活躍できるまちづくりを進めます。

【重点的に取り組む施策】

- ①高齢者が地域活動に参加できる場づくり
- ②高齢者の健康づくり支援事業
保健福祉フェアの開催、健康づくり講演会
- ③ひとり暮らし高齢者等の支援
地域見守り活動、「地域だより」の発行

☆まち歩きが楽しくなるまちづくり

「心地いい」と感じるまちには、身近に多様で魅力的な店がたくさんあります。垂水区には、明治から操業している老舗、地元で愛される店、地元の海からとれた食材等で料理を提供する店など、心地いい雰囲気のお店がいっぱいです。こうした店も垂水の魅力「たるみりょく」の一つであり、生活に密着した店が、身近にたくさんあり、楽しく買い物ができるまちづくりを進めます。さらに、そうした店が増えるよう、空き家の活用などを検討していきます。

また、開発団地に新たな魅力を加えて活性化するリノベーション・モデルとして多聞台団地の再生に取り組みます。

【重点的に取り組む施策】

- ①地元産業の振興
漁業（垂水漁港）振興、垂水駅前商店街の活性化等
- ②空き家活用促進事業
- ③オールドニュータウンの再生
多聞台団地の再生プロジェクト

☆交流とおもてなしのまちづくり

垂水区は、地域活動が活発で、夏になると各地で夏祭りが開かれます。最近では、中高生がボランティアで参加する例が増え、子どもから高齢者までたくさんの皆さんが参加して大賑わいです。地域によっては、外国人の家族連れの参加も見られます。

こうした地域の活動を支援し、各地域団体の交流・連携を進めることで、地域総合力を高め、転入してきた人やひとり暮らし等高齢者、ひとり親家庭等が一人にならないよう、身近に相談ができる人がいて、地域とともに安心して暮らせるまちづくりを進めます。

また、地域に残る伝統行事・文化・芸能などを伝承・保存し、子どもたちに「わがまち」の文化の魅力を伝えていきます。

【重点的に取り組む施策】

- ①誰もが参加できる地域イベントの開催の促進
- ②地域福祉センターなどを中心とした異世代間交流の促進
- ③伝統文化の保存・継承

☆安全・安心で美しいまちづくり

地震や風水害など、あらゆる災害に対応できる災害に強いまちづくりを進め、自然災害から被害を最小限に食い止める減災に努め、安全・安心なまちづくりを進めます。

また、地域での防犯活動の取り組みを促進するとともに、警察と連携し、犯罪に巻き込まれないよう地域防犯力の強化に努めます。

さらに、すべての人が気持ちよく過ごせるよう、生活マナーの啓発・生活環境づくりを進めます。

【重点的に取り組む施策】

①地域防災力の向上

地域での防災訓練の実施、市民防災リーダー・市民救命士の育成、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人の安否確認を行うための地域コミュニティを通じた仕組みづくり

②地域防犯力の強化

警察と連携した地域の安全・安心情報の共有、子ども・高齢者の犯罪被害予防、交通事故防止

③マナーを守って、美しいまち

ごみ出しマナーの向上、ペットマナーの啓発・適正飼育の推進

☆快適で整備されたまちづくり

垂水区は東西7キロメートル、南北5キロメートルの小さな区ですが、東西には、JR3駅と山陽電鉄7駅の計10駅があり、南北には、山陽バスを中心に垂水駅と舞子駅を起点に学園都市駅と名谷駅を結び、そこから市営地下鉄に接続します。また、垂水区内から三宮への高速バスも出ています。このように、どこに行くにもたいへん便利なまちです。

また、坂の多いまちですが、歩道の段差の解消や歩道への腰掛の設置など人にやさしい道づくりを進めています。さらに、垂水健康公園や荅谷公園、名谷あじさい公園など面積が3ヘクタール以上ある大きな公園が7つもあり、健康づくりに役立つ健康器具を設置するなど、快適な公園づくりを進めています。

安心して快適な歩道づくり、バス網の充実など交通利便性や回遊性の向上、身近な公園や水辺空間などの整備を進め、住む人にやさしい快適に暮らせるまちづくりを進めています。

【重点的に取り組む施策】

- ①みんなにやさしい歩道の整備、みんなにやさしい公園づくり
- ②コミュニティ・バスの導入検討
- ③違法駐輪・違法駐車対策

2

景観を生かして人を呼び込むまち

垂水に住のまちだけではない、ウォーターフロントの観光地としての魅力を備えています。沿岸部の施設の事業者連携を進め、各機関が協力し合って、垂水の魅力「たるみりよく」を発信して、一層、交流人口を増やしていきます。

このほか、特色ある6つの文化圏の地域資源を生かしたウォーキングコースや地域に古くから伝わる伝統文化や芸能の魅力を発信して、地域への愛着が深まるよう取り組みを進めています。

【重点的に取り組む施策】

- ①五色塚古墳、塩屋異人館、明石海峡大橋等の観光資源の発信
- ②明石海峡大橋周辺3都市連携
- ③垂水観光推進協議会（観光ボランティア）

垂水区では、区民の生活文化の振興を目的に設立した垂水区生活文化協会が、昨年、活動20年目を迎えました。垂水区民総合文化祭、垂水区公募作品展などの開催を通じて、さまざまな年齢の人が作品発表やパフォーマンスを披露できる場を用意し、区民の作品の鑑賞や交流の場をつくっています。また、垂水区音楽協会は声楽アンサンブルコンクールや秋の音楽祭、クリスマスコンサートなど年間を通じて活動しています。

学びの場では、垂水勤労市民センターや垂水体育館で、各種文化講座やスポーツ教室、健康教室が開催され、老若男女が多く参加しています。

民間の施設でも、塩屋のジェームス山の中腹にある井植記念会では、年間を通じてコンサートや文化講座などの文化事業を展開しています。シーサイドホテル舞子ピラには本格的な音楽ホールがあり、音楽発表会、室内楽演奏会が催されています。

このほか地域でも、地域福祉センターなどを中心に、地域に根差した文化活動が展開されており、垂水区は、知的好奇心や芸術的創造力を刺激されるまちです。

【重点的に取り組む施策】

- ①垂水区民総合文化祭
- ②地域活動交流コーナーの運営
- ③垂水区魅力アップ助成

5 特色ある生活文化圏の紹介

垂水区には、それぞれに特色ある地域資源をもった6つの文化圏があります。今回の区計画の策定にあたって、それぞれの地域の特色や魅力について話し合ってもらいました。ここにその魅力の一部を紹介します。

1 塩屋・下畑

「電車から海が見える」「魅力的な洋館」「芸術家・文化人が居住」「災害時要援護者支援の取り組み」「下畑の集落のまちなみ」

2 東垂水

「海が近い」「道が狭く坂のまち」「おしゃれな店舗」「住み続ける人が多い」「空き家がシェアハウスに」

3 西垂水

「新築が増加」「交通利便」「小学校で行事がたくさん」「子どもの数が多い」「人気の住宅地」

4 舞子

「住宅のまち」「明石海峡の夕日」「観光客が多く来訪」「子ども対象のイベントが多い」「地域愛」

5 多聞

「昔からの伝統行事」「神社を中心とした地域行事」「舞多聞に新しい小学校が建設」「大学生が中学生の学習支援」「高校生が地域活動に参加」

6 名谷

「七夕まつり」「もちつき」「地域行事」「寺社の伝統行事（追儺式）」「学園都市の大学生が定着」

6 区の魅力を強化するために推進する事業の体系図（31 事業）

柱	区が進めていく取り組み
■住む人がより暮らしやすいまち ～安全で安心なまちづくり～	
子どもが元気で健やかに育つまちづくり	地域ぐるみ、家族ぐるみの子育て支援
	子どもの安全対策
	子ども、青少年が活躍できるまちづくり
	こころとからだの健康づくり
	児童の居場所づくり
高齢者が健康で生き生きと暮らすまちづくり	高齢者が地域活動に参加できる場づくり
	高齢者の健康づくり支援事業
	ひとり暮らし高齢者への見守り活動等の地域支援の充実
まち歩きが楽しくなるまちづくり	地場産業の振興
	空き家活用促進事業
	オールドニュータウンの再生
交流とおもてなしのまちづくり	地域団体の交流や連携を促進するなど地域総合力の強化
	地域の誰もが参加し楽しめる地域イベントの充実
	地域福祉センター等を中心とした異世代交流の促進
	伝統文化の保存と継承
安全・安心で美しいまちづくり	地域防災力の向上
	地域防犯力の強化
	ごみ出しマナーアップの推進
	ペットマナーの啓発・適正飼育の推進
快適で整備されたまちづくり	みんなにやさしい歩道の整備
	みんなにやさしい公園づくり
	住宅密集地へのコミュニティ・バスの導入など交通利便性・回遊性の向上
	幹線道路の渋滞対策
	違法駐輪・違法駐車対策
	美緑花の推進・水辺空間の活用
■景観を生かして人を呼び込むまち	沿岸部の集客施設や遺跡、社寺などの観光資源、6文化圏の地域資源を生かした情報発信
	ホームページや観光ボランティア等を通じた魅力発信
	事業者や周辺市との連携強化
■遊・創・学が身近なまち	身近に芸術や文化、伝統芸能にふれあう機会の提供
	多彩な発表の場づくり
	地域の魅力アップ活動への支援

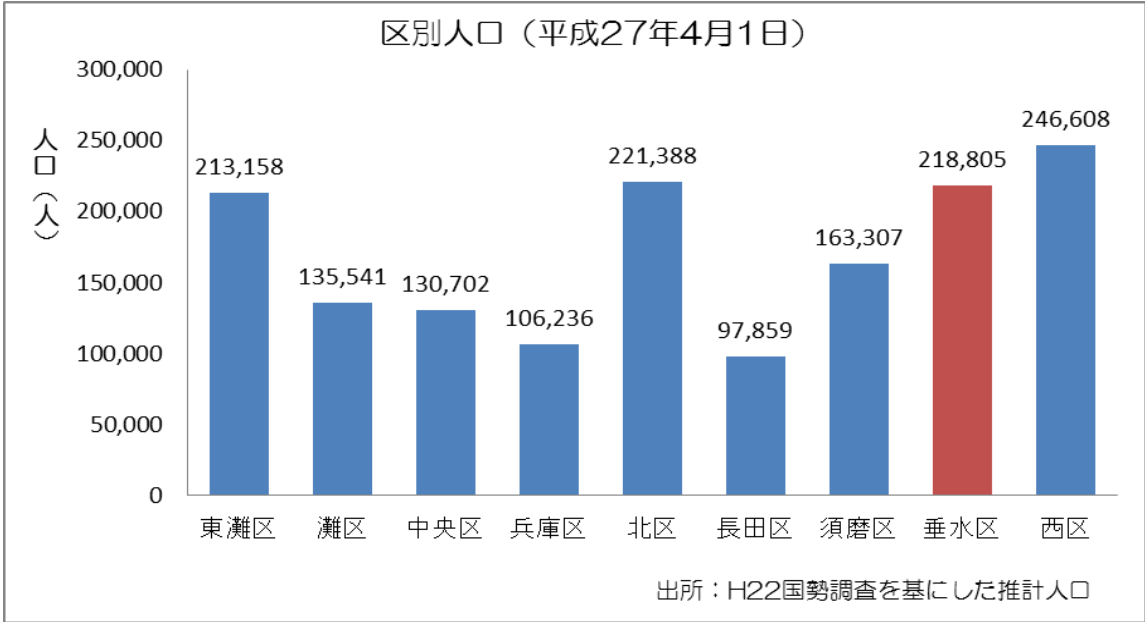
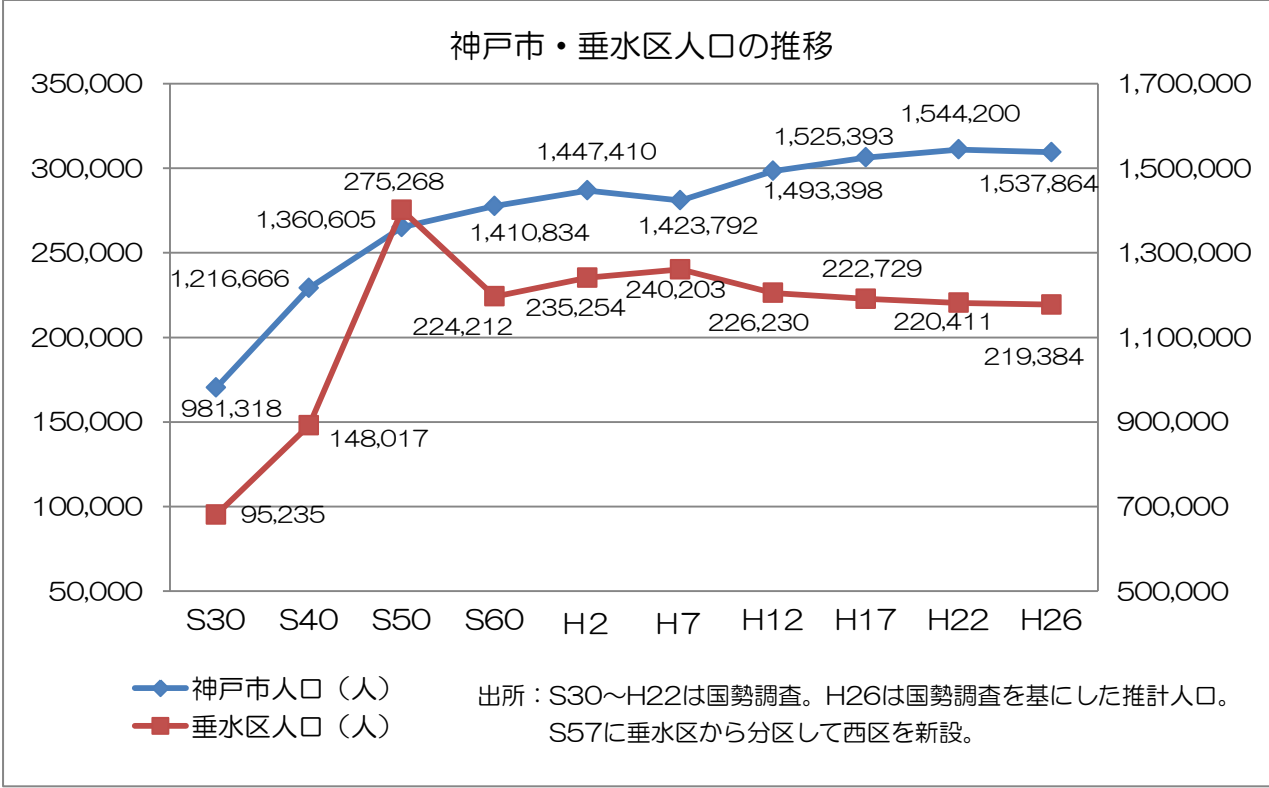
7 指標

若い世代の移住を推し進め、住んでよかったと思える「住のまち」を実現するため、数値による見える化を図り注視していきます。

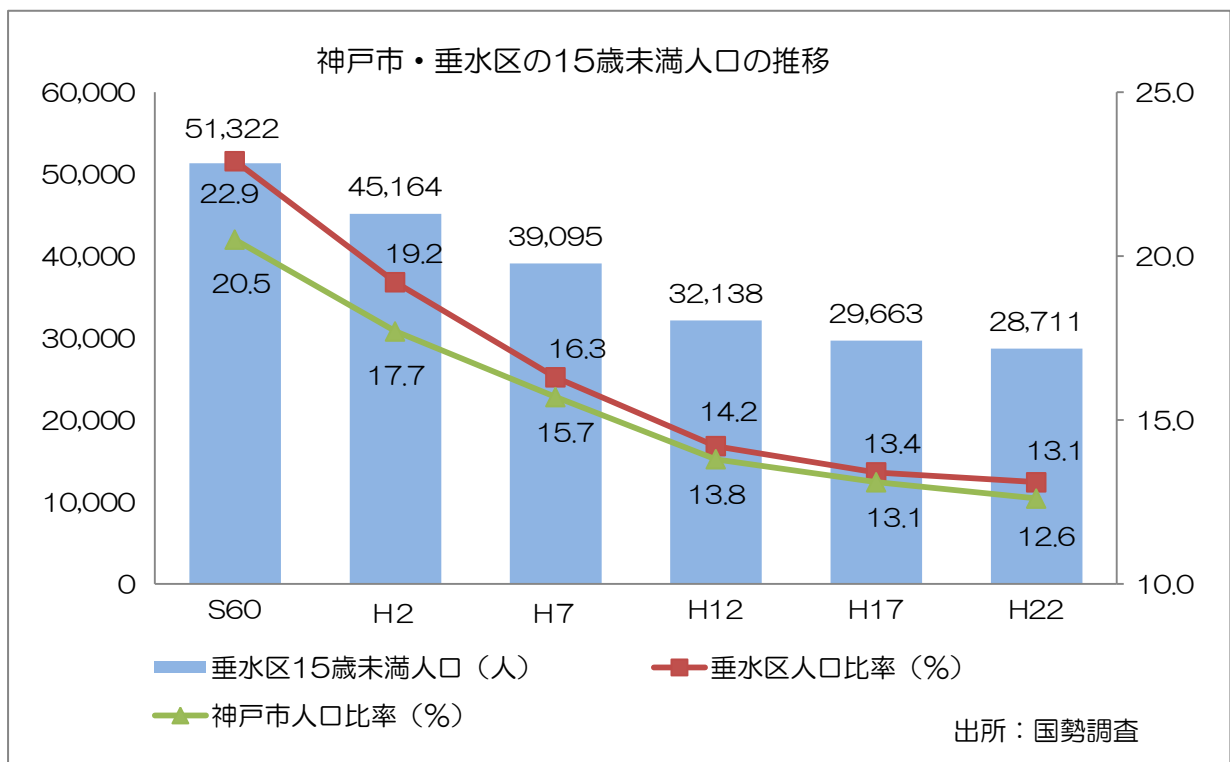
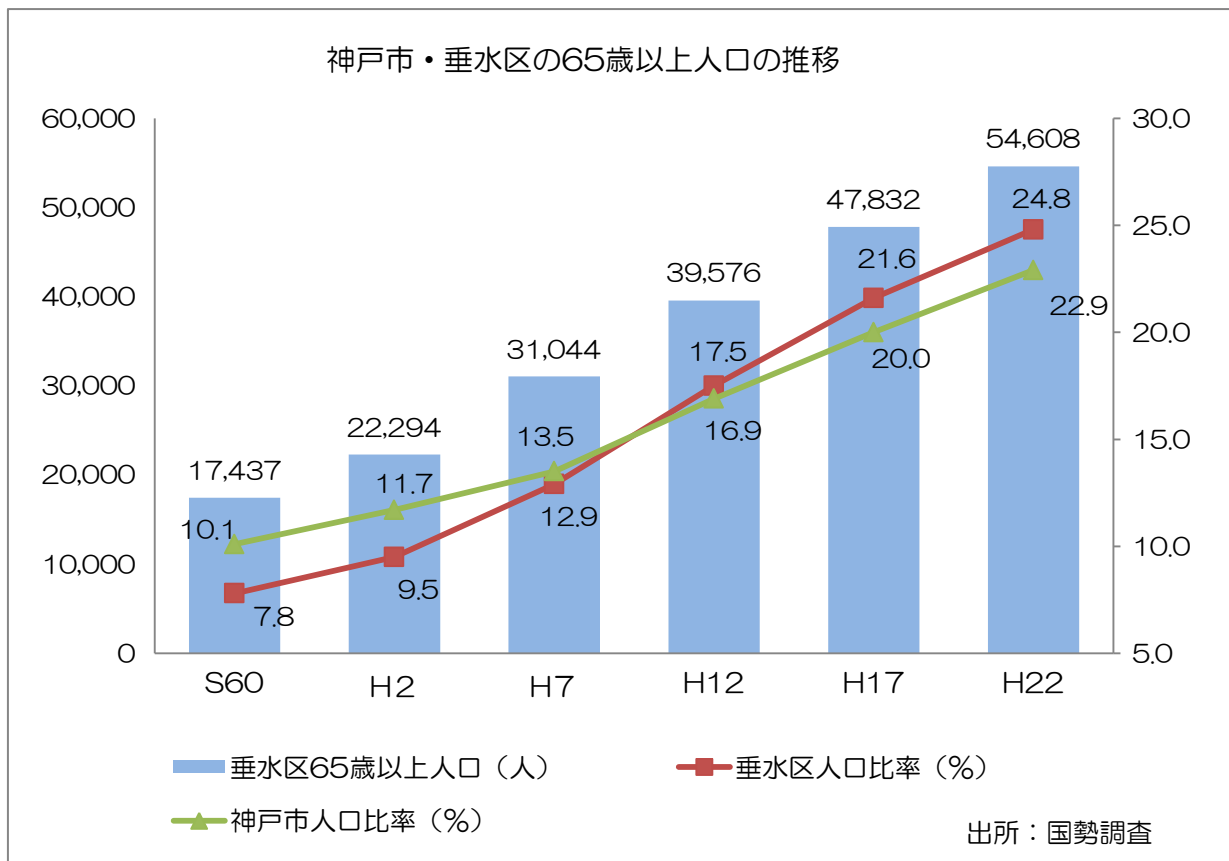
【参考】

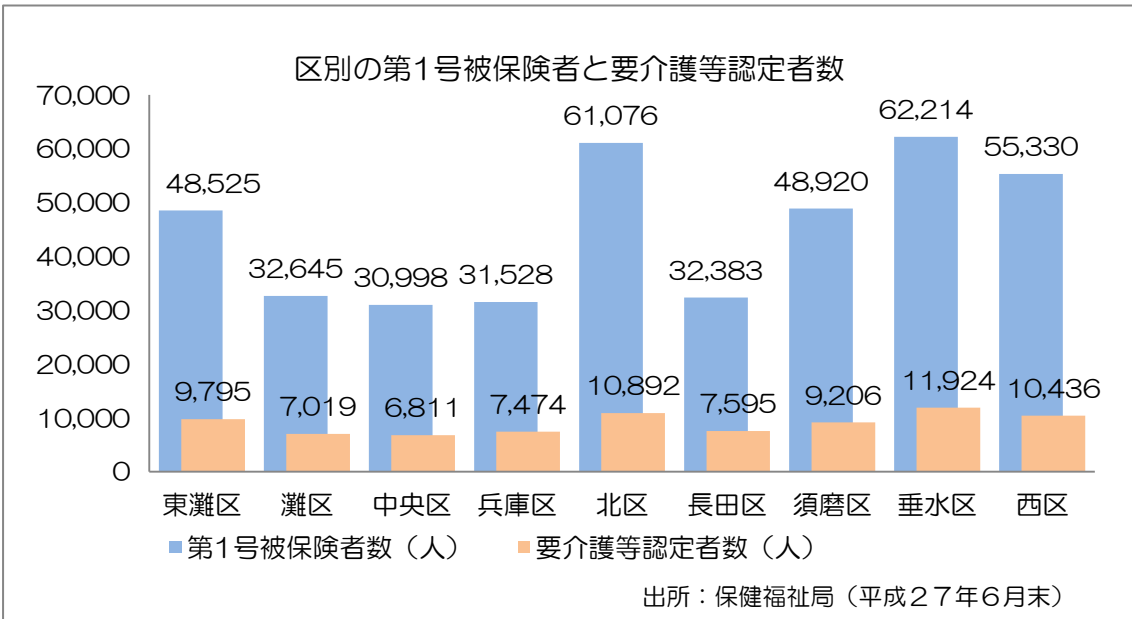
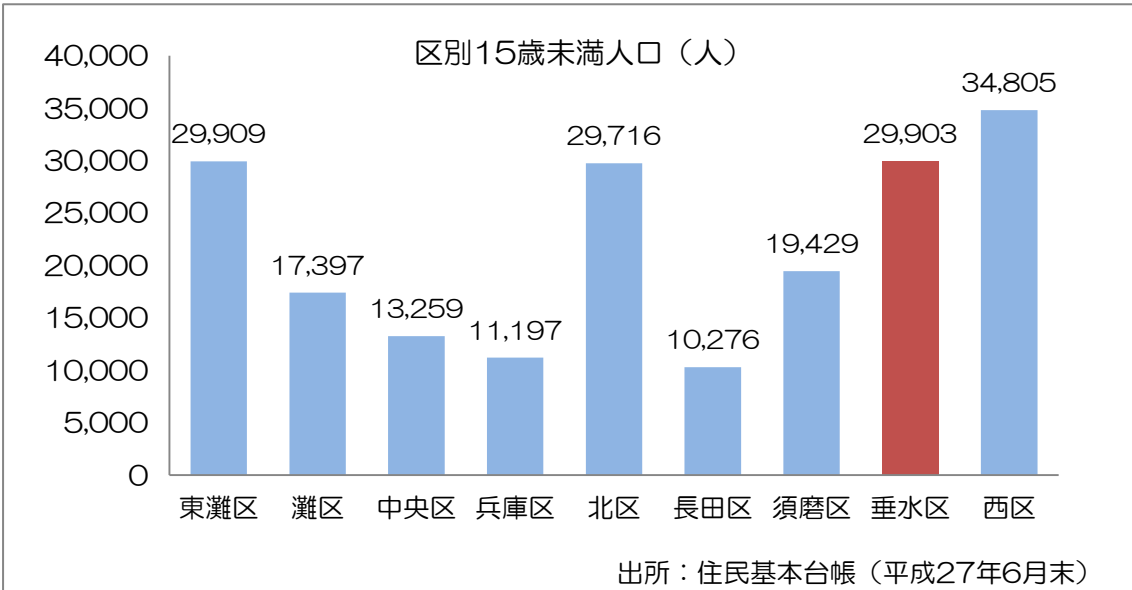
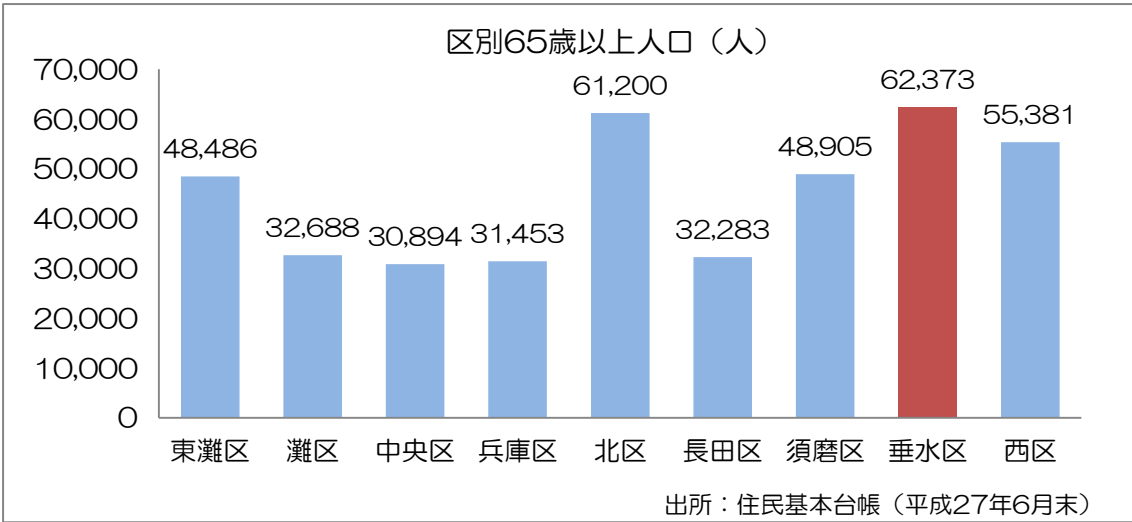
- 若年世帯の転入数
- 出生数
- 観光入込客数

8 統計データでみる垂水区

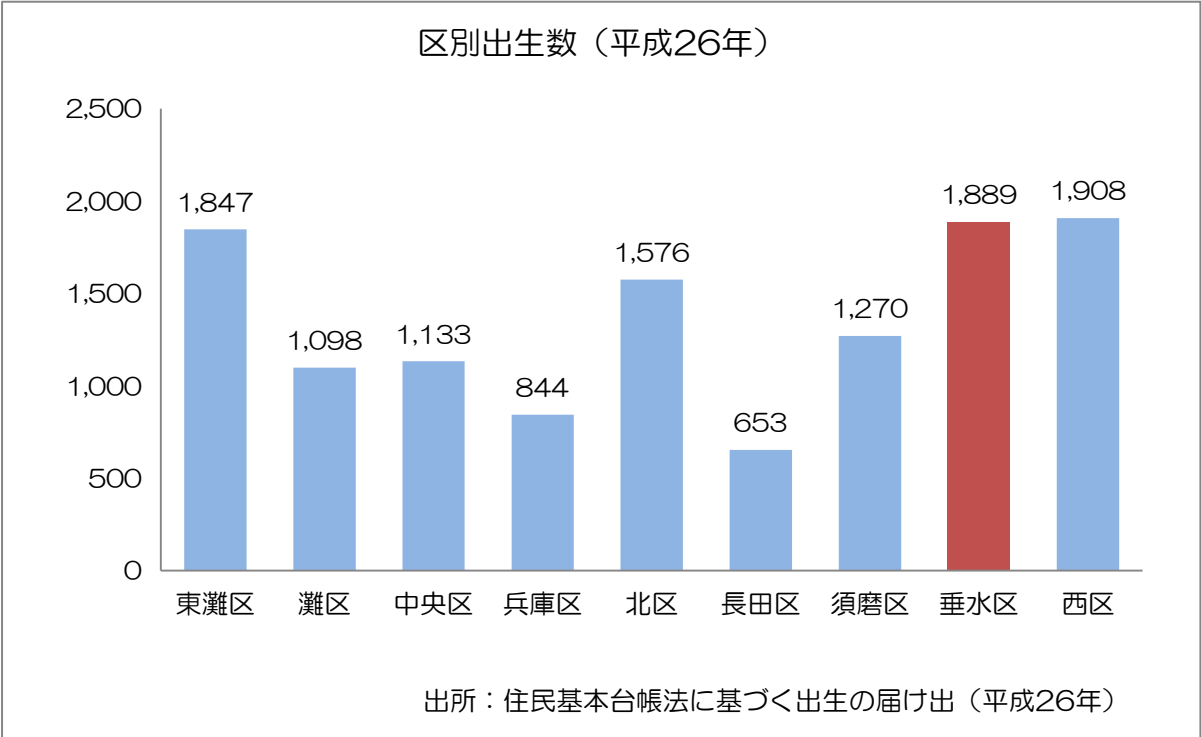
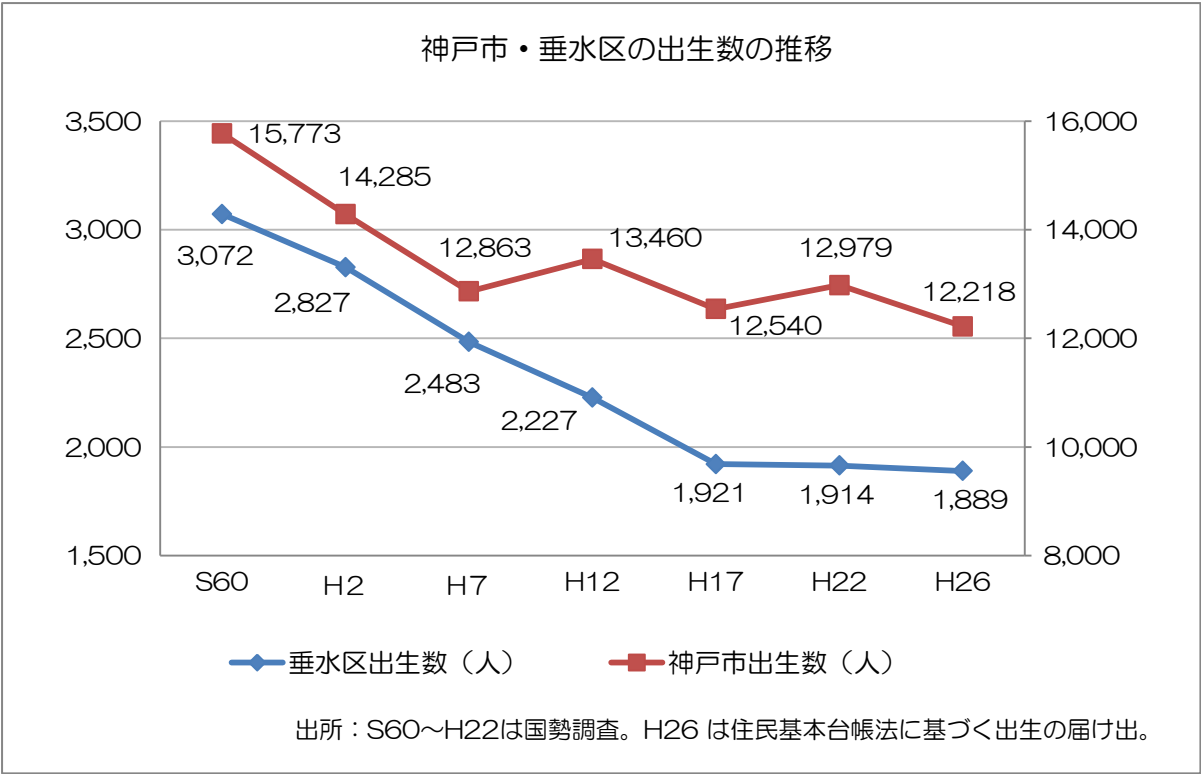


垂水区の人口は、昭和30年に5万人だった人口が、40年には14万8千人、50年には27万5千人と急増しました。昭和57年に西神地区が分区され西区を新設して、昭和60年に22万4千人となり、その後は22万人前後で推移し、現在、21万8,805人と、市で3番目となっています。

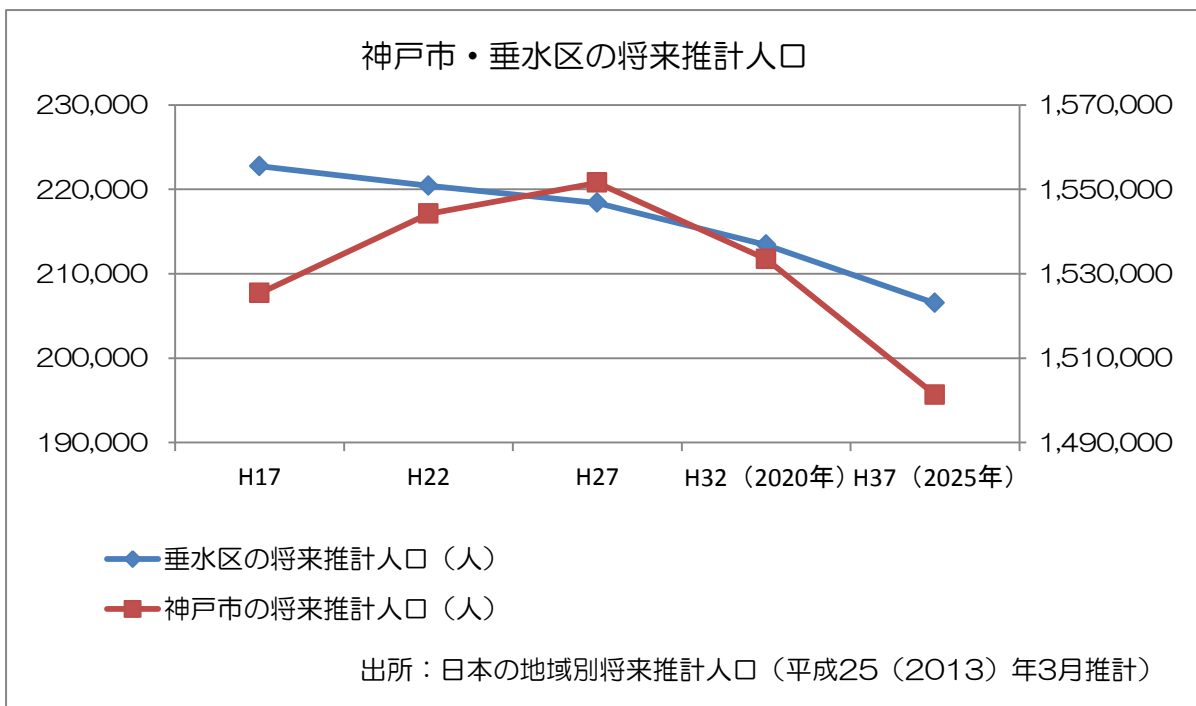




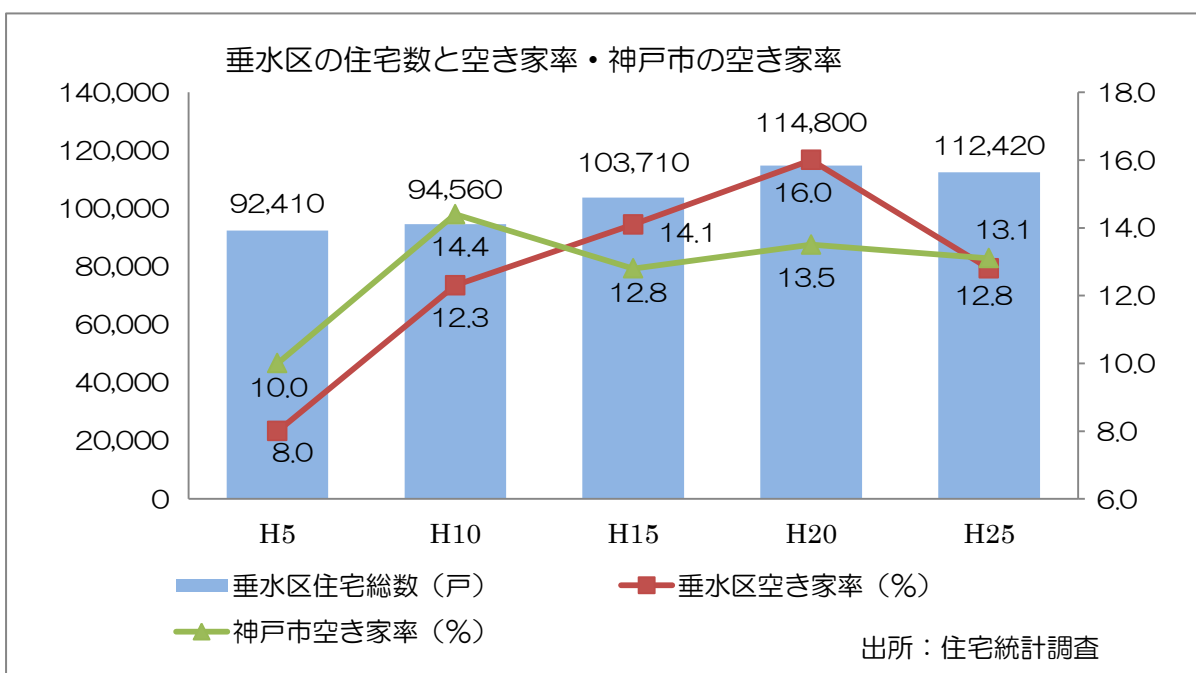
垂水区の15歳未満の人口は、平成27年6月末で約3万人と市で3番目です。一方、65歳以上の人口は、平成27年6月末で6万2千人と市で1番多くなっています。また、要介護等の認定を受けていない人の数も同様に、多くなっています。



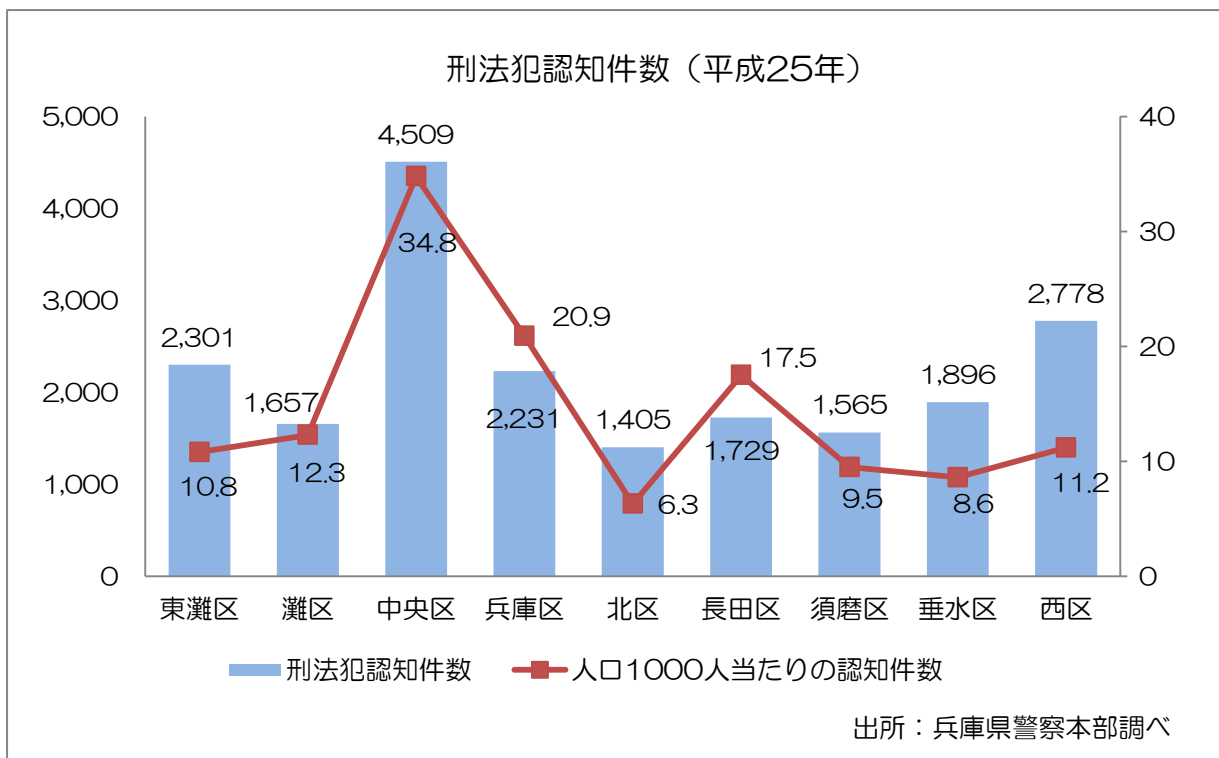
垂水区の出生数は、昭和60年に約3千人ありましたが、平成26年には1,889人となっています。平成17年以降は微減が続いていますが約1900人で推移しています。区別の出生数では、市で2番目です。



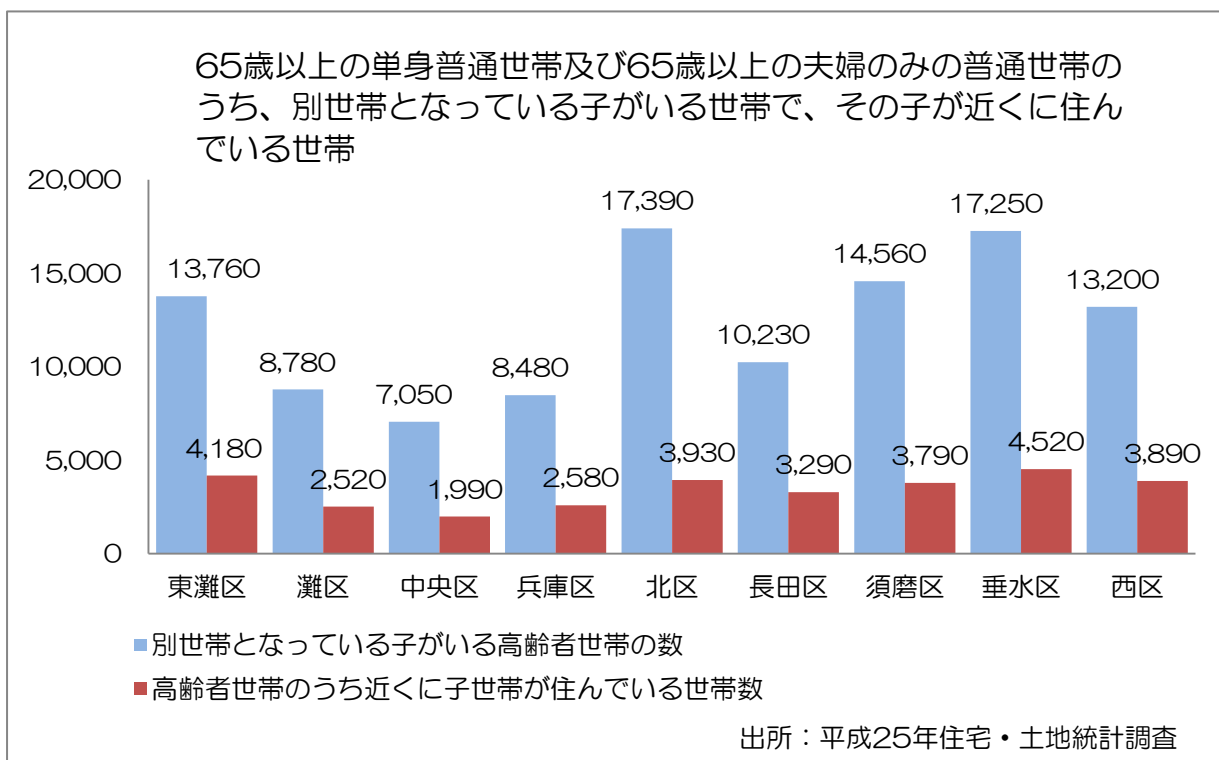
垂水区の将来人口は、「日本の地域別将来推計人口」によると、少子高齢化の進展により、平成32年（2020年）には約5千人減り、21万3,416人に減少すると言われています。



垂水区の住宅数は、平成5年の9万2千戸から増加し、平成25年には11万2千戸となっています。一方、空き家率も、平成5年の8パーセントから増加し、平成25年には約13パーセントとなっています。



垂水区の刑法犯認知件数は、平成25年は約1900件と、市で5番目ですが、千人当たりの認知件数で見ると、8.6人と市で8番目になります。



垂水区の65歳以上の単身普通世帯及び65歳以上の夫婦のみの普通世帯のうち、別世帯となっている子がいる世帯で、その子が近くに住んでいる世帯は、平成25年に4500人で、市で1番となっています。

○垂水区のまちづくりに関する区民アンケート 実施概要

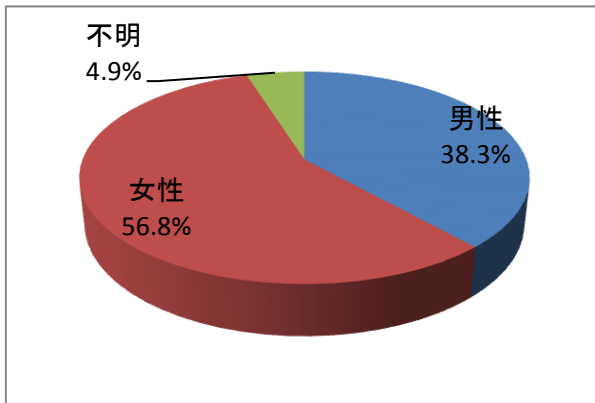
調査方法 郵送による発送・郵送による回収

調査対象 神戸市垂水区の住民基本台帳（平成27年度2月末現在）に登録のある20歳以上の方

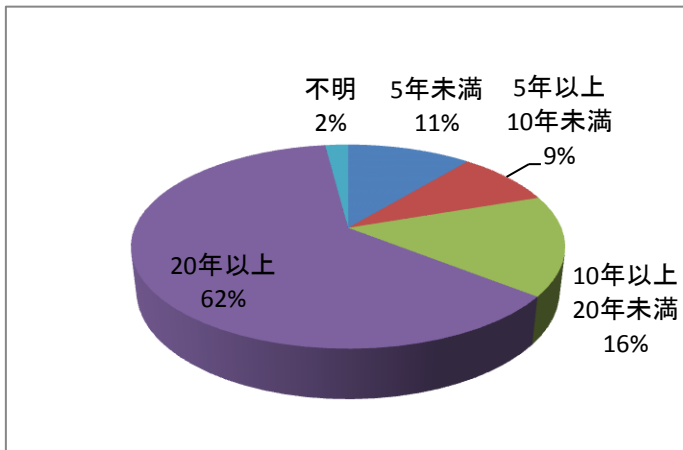
調査期間 平成27年3月31日～4月30日

回収率 約36%（1,078票回収／3,000票配布）

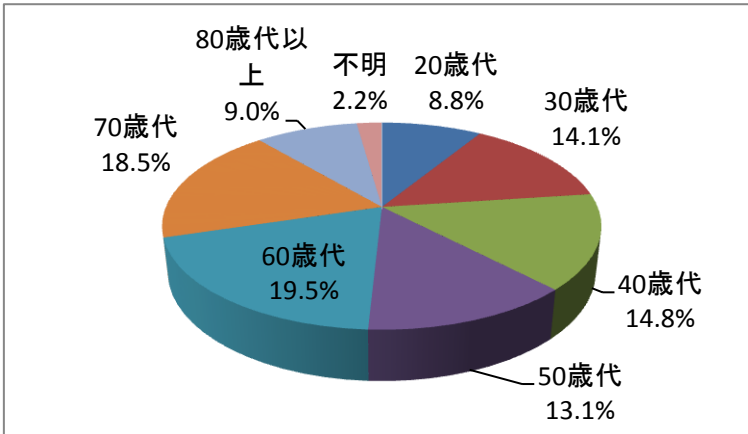
○集計結果



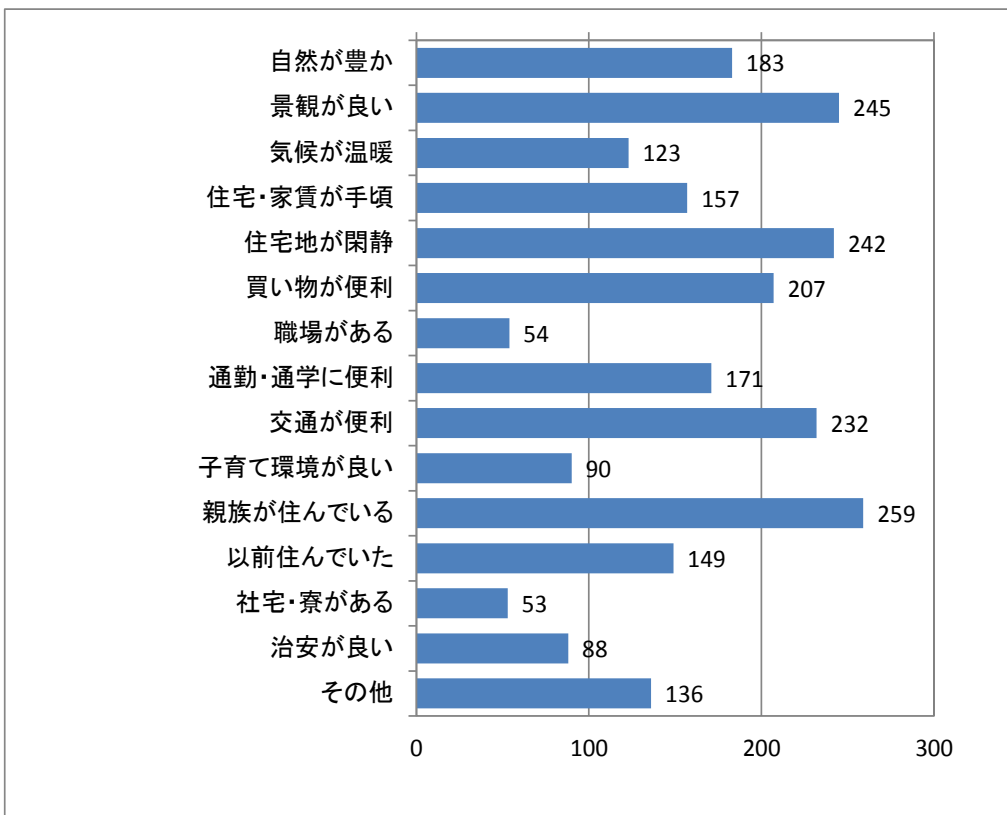
回答者の属性は、男性の回答者が38.3パーセント。女性の回答者が56.8パーセントである。



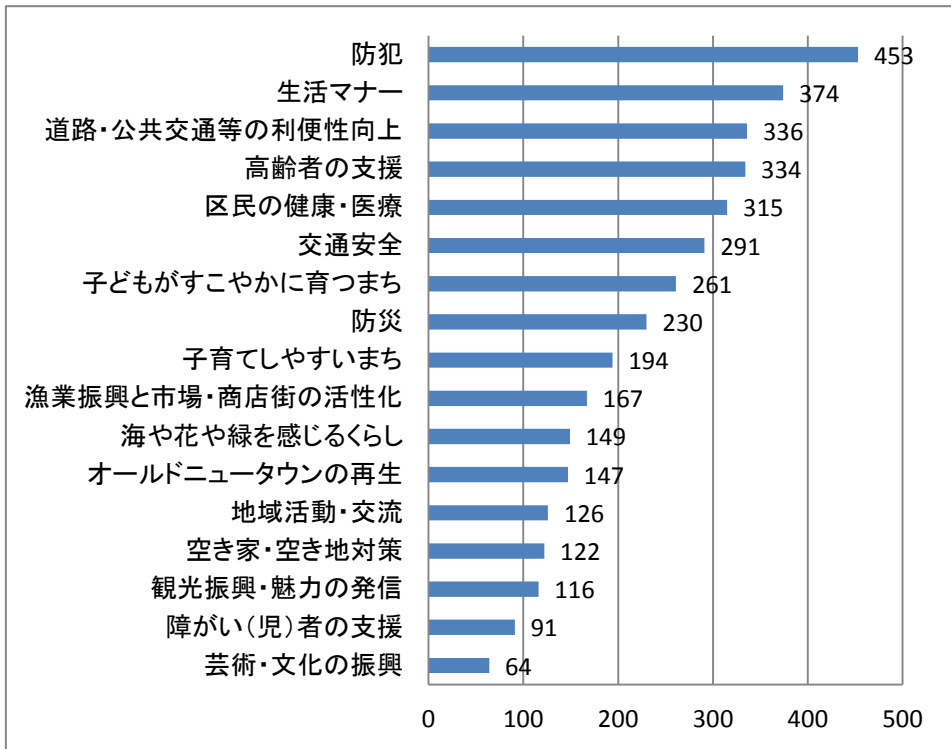
回答者の居住年数では20年以上居住していると回答した人が6割強おり、10年以上20年未満の人を加えると約8割になる。



回答者の年齢層は、60歳以上の人で約半数（47パーセント）である。



垂水区で暮らすことを決めた理由を聞いた質問では、「親族が住んでいる」がもっとも多く、次いで「景観が良い」、「住宅地が閑静」「交通が便利」「買い物が便利」となっている。特に20～50代で「親族が住んでいる」が1番目になっており、子育てなどで両親に助けられている姿がうかがえる。また、男女別では、男性は「景観が良い」、女性は「親族が住んでいる」がもっとも多かった。




垂水区において取り組んでいくべき優先テーマ・特に取り組んでいくべきことについて聞いた質問では、「防犯」に対して取り組んでいくべきと回答した人がもっとも多く、次いで「生活マナー」「道路・公共交通等の利便性の向上」「高齢者の支援」となっている。「防犯」に対しては男性、女性とも回答数が一番多く関心の高さを示している。回答者に高齢者の割合が高いため、結果的には「防犯が」一番多くなったが、年齢別では、20歳代は「道路・公共交通等の利便性向上」、30歳代は「子どもがすこやかに育つまち」、40・50・60歳代は「防犯」、70歳代は「高齢者の支援」が多くなっており、各年代の一番の関心ごとが示された結果になっている。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE 

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

神戸市垂水区役所

神戸市広報印刷物登録 平成 27 年度第 767 号(広報印刷物規格 A-1 類)